

H24.12.29

拠点病院と町医者



「抗がん剤」シリーズ⑥

がんにもいろいろあり、抗がん剤にも多くの種類があります。昔ながらの絨毯爆撃型攻撃型の分子標的薬やホルモン剤があります。それぞれのがんには、定められた標準治療というものがあります。ひとくに抗がん剤治療といっても、その内容は実にさまざまであり、慶応大学の近藤誠先生のように、単純に良いとか悪いとか言い切れるもので



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。

がんにもいろいろあり、抗がん剤にも多くの種類があります。昔ながらの絨毯爆撃型攻撃型の分子標的薬やホルモン剤があります。それぞれのがんには、定められた標準治療というものがあります。ひとくに抗がん剤治療といっても、その内容は実にさまざまであり、慶応大学の近藤誠先生のように、単純に良いとか悪いとか言い切れるもので

副作用傾向と対策

20日、血小板は10日、白血球の中でも好中球は1日以内とされています。もし白血球が500以下になれば、感染しやすくなります。そこで白血球を増やす薬であるG-CSFを注射します。血小板が足りなくなれば血小板輸血をします。

②味覚障害 舌にある味蕾という味覚のセンサーが障害されます。唾液を出す唾液腺の働きも低下します。味が分りにくくなることは、とても辛いことです。亜鉛製剤や亜鉛を多く含む食事に対応しますが、これが嫌が抗がん剤

③口内炎 免疫能の低下に伴い、口の中がただれて、痛みを訴えます。日常生活の中で口の中をきれいにしておく努力が必要です。

④食欲不振 食欲低下も深刻な副作用です。食べられないければ、体力が低下してしまい、治療が継続できません。

⑤吐き気と嘔吐 シシプラチンやエンドキサンなどの抗がん剤で出やすい症状です。大昔は1日中、吐いている人がよく見ましたが、現在は優れた吐き気止め薬が開発されています。

⑥下痢と便秘 腸の粘膜も障害されて下痢になる人、反対に便秘になる人もいます。

⑦全身倦怠感 多くの人が訴える症状。ただし、がんの進行によるものか、抗がん剤の副作用によるものか、不安やストレスによるものかの見極めが大切です。ステロイド剤のほかに十全大補湯や補中益気湯などの元気にする漢方薬が有効です。看護師らによるアロマテラピーなどの代替医療が効くこともあります。

⑧皮膚やつめの障害 アドリアシンという薬は、もしその点滴が漏れたら大変です。また分子標的薬のイレッサやタルセバ、ネクサバルは、皮膚やつめに障害を起すことが知られています。皮疹、爪周囲炎、手足症候群などです。

⑨末梢性神経障害 オンコピン、エクサル、ナベルンという薬では手足がしびれます。大腸がんではオキサリプラチン、シスプラチン、タキソール、タキソテールなどによっても手足が痛みます。

⑩間質性肺炎 分子標的薬のイレッサによる間質性肺炎がかつて騒ぎになりました。呼吸困難が出たら一気に悪化することがあるので、早期発見が大切です。

がん診療連携拠点病院 どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国に397カ所の病院を国が指定。専門的ながん医療の提供、連携協力体制の構築、相談支援や情報提供などを行う。インターネットで簡単に検索できる。

以上、挙げたような抗がん剤の副作用に町医者がかかわる機会が増えています。全身倦怠感が強くなると、がん診療連携拠点病院まで通院できなくなるからです。専門病院と地域の町医者や訪問看護師さんとの連携が大切な時代になりました。

それでは、よいお年をお迎えください。

ひょうい